

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2024年8月分)

ご協力ありがとうございました。2024年8月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143 回答 134 回答率 93.7%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	10社	7社	39社	42社	36社	134社
	7.5%	5.2%	29.1%	31.3%	26.9%	
	(9.6)	(18.5)	(30.4)	(21.5)	(20.0)	
売上高	10社	7社	33社	45社	39社	134社
	7.5%	5.2%	24.6%	33.6%	29.1%	
	(11.1)	(18.5)	(32.6)	(17.0)	(20.7)	
在庫数量	9社	20社	69社	21社	9社	128社
	7.0%	15.6%	53.9%	16.4%	7.0%	
	(10.0)	(18.5)	(43.1)	(20.0)	(8.5)	
販売単価	6社	23社	68社	34社	2社	133社
	4.5%	17.3%	51.1%	25.6%	1.5%	
	(4.5)	(22.4)	(60.4)	(11.9)	(0.7)	
収益状況 (粗利)	4社	19社	40社	46社	25社	134社
	3.0%	14.2%	29.9%	34.3%	18.7%	
	(8.9)	(17.0)	(39.3)	(23.0)	(11.9)	
稼働率 (生産・加工設備)	2社	9社	42社	43社	19社	115社
	1.7%	7.8%	36.5%	37.4%	16.5%	
	(3.5)	(15.7)	(40.9)	(28.7)	(11.3)	
入出庫の トラック台数	1社	5社	51社	54社	20社	131社
	0.8%	3.8%	38.9%	41.2%	15.3%	
	(3.1)	(10.7)	(44.3)	(29.8)	(12.2)	
現在の 景況感	0社	5社	38社	61社	29社	133社
	0.0%	3.8%	28.6%	45.9%	21.8%	
	(0.0)	(4.5)	(37.3)	(42.5)	(15.7)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	19社	84社	23社	7社	133社
	0.0%	14.3%	63.2%	17.3%	5.3%	
	(0.0)	(15.7)	(65.7)	(17.2)	(1.5)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2024年8月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 8月の販売量は、稼働日が前年同期比3日減の17日間だったために、ここ2~3年では最低の月別販売量だった。建築向けを中心に国内需要はまだ停滞したまま。国内高炉各社は生産を落としているようだが、輸入材は一向に減らず、円高によりさらに価格が下がっている模様。しばらく市況は下がり続けるのではないかと。
- ② 8月は前年並みの加工となり、猛暑日が多いなか頑張ったと思う。需要が停滞していたが、徐々に日当たりの加工量が増加傾向で、下期は上期より良くなるとの見立てが多く聞こえてくるので、需要の底は脱したのではないかと感じている。かわせ
- ③ 為替の影響で中国材の安値玉が年明けに入ることを想定すると、市況下落が必至か。在庫は調整しているものの、ここまで動きが悪いと資金繰りにも苦勞する。

中板

- ① 中板においては盆明け以降も動きはなく、先々の具体的な案件も聞こえてこない。引合いは、各社とも当用買いに徹しており低調で推移。価格も依然として弱含みの状況が続いており各社、底値を探る状況。

厚板

- ① 建設機械は減産が顕著になり、売上も減少している。店売り関連は稼働日の減少(夏休み)もあり、売上が減少している。
- ② <全体感>厚板需要は変わらず低位横ばいで推移しており、全分野で需要が低迷している。とくに8月は連休の関係もあり稼働日が少なく、稼働は総じて低い状況となっている。原材料価格に加え、足元ではスクラップ価格も下落傾向の中、鋼材価格の先安観も出始めている。<分野別>建設機械は夏季連休の関係もあり非常に低い稼働となっている。9月以降は下期の取り戻しも予定されているものの、販売面での環境も良くなく急激な回復は見込めない。産業機械も同様に販売面での苦戦が続いており、今しばらく調整が継続する様相となっている。店売りは前述の通り、低い需要と先安観で荷動きは悪く、まとまった量での引合いは少ない。
- ③ 8月の連休以降、また受注量が減ってきている。工期遅れのせい客先の発注タイミングが鈍っているようである。7月に続き一部の業種のみ好調。

— 舟安开形鋼 ・ I-I 开形鋼

- ① 長い盆休みと不需要と熱波で販売減は覚悟していたが、想定内の範囲に収まる。市況は意外にも持ち堪えた感触。しかし、9月も8月の流れを継続するなら、市況は要注意、繰り延べとなる。
- ② 人手不足で現場が順調に動いていない。若い世代の方が現場に入って来ない。
- ③ 現状の価格を維持するのが精一杯。弊社は土木主体であり、建築主体の会社よりはまだ引合いはあるようだが需要、価格とも厳しい状況になりつつある。
- ④ 需要実態に合った仕入れに徹する。

異形棒鋼

- ① とにかく荷動きが悪い。市況は横這いの認識で、需要の回復を待つしか対応策はない。
- ② 8月の稼働は17日。動きはあったが7月比2割ダウン。東鉄は据え置き。相場は変わらず。秋は、例年少しは動くので良くなっていく。

平鋼

- ① 8月の店売りは、日量は横這いを確保できたが稼働日が少なく前年同月比で大幅なダウンとなった。主に店売り在庫出荷が7月と同様に低迷し、なおかつスクラップ価格が下がっているので各在庫店は様子見で必要最小限の購入になっている。社内加工は夏季休暇前後から入り始め、徐々に山積みが高い状態を維持してるが、10月半ば以降の案件がまだ見えないので情報を取っていく。
- ② 前年より稼働日も▲15%なので数量、売上ともに稼働日分マイナスとなった。昨今の状況も悪く、9月以降も伸びはあまり期待できない。売上減にともない在庫量も増えてきているので、今後調整が必要。

軽量开形鋼

- ① 7月より日数が減った分だけ悪くなったが、肌感覚はそれ以上だったので、かなり苦しい状況だ。
- ② 生産量、売上ともに横這い。年末まで大きな減少はないと思われるが好転は期待できない。

鋼管

- ① 数量、金額ともに前年比増となっているが、粗利は減少している。先行きに期待感はなく、前年比横這いが続くと予想される。
- ② 夏季休暇(8/10~18)で9連休の現場、ユーザー、大手問屋が多く、荷動きは冴えない1カ月であった。ただし、首都圏の大型建築物は確実に動き始めており今後、秋から年末に期待したい。

構造用鋼

- ① 需要については、自動車関連で認証不正問題の影響などもあり、冴えない状態が続く。建機関連は停滞状況。下期も現状横這いか。工作機械は一部で回復の動きも聞かれる。店売りは夏季休暇もあり稼働日も少なく低調。店売り在庫は適正水準。価格はメーカー値上げや輸送費他諸コスト上昇分の価格転嫁を実施して完遂した。

磨き棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品は、メーカーの不正認証問題から回復が期待されたが、現状変化がなく低位のまま推移している。店売りは駆け込み需要の反動減により大きく出荷減となった。今後も回復の兆しもなく、厳しい状況が続くものと思われる。

その他

<異形バーインコイル・ナマシ鉄線>

- ① 夏季休暇もあり稼働日が少ない上に月末の台風もあり、出荷遅れが発生。相変わらず厳しい状況が続いている。

<金属加工製品>

- ① 鉄骨需要量の低下により 2025 年度前半までは現在と同じ状況が継続すると予想。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場は続落し、値崩れしている。国内メーカーは炉修や減産に伴って荷止め、荷制限をしている。輸出向けに関しても為替が不安定なうえに円高に振れていることもあり、商談が進まない模様。世界的に見てもスクラップの購入意欲は低く、経済活動の低迷が窺える。

<金属表面処理>

- ① ショットプライマーの受注は紐付き、スポット共に低調だった。半面、錆止め塗装の引合いは多く、乾燥期間を考慮すると納期的に厳しい場合も多い。

<その他>

- ① 上田ショックの影響で円高、株安、スクラップ安になり先の見通しは極めて悪い。